

特集

研究室探訪
interview



福岡女子大学美術館蔵「首L」作：安永 良徳

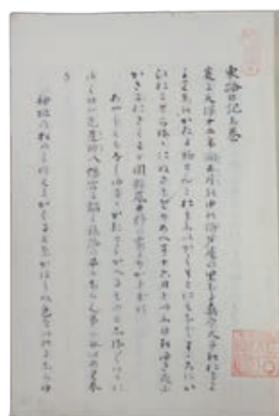
読書の秋

貴重図書紹介

●福岡女子大学図書館蔵

『東路日記』写本

著：小田宅子



福岡女子大学図書館には貴重図書が所蔵されています。今回はその一つである小田宅子の『東路日記』についてご紹介いたします。

『東路日記』は、上底井野村（現在の福岡県中間市上底井野）の兩替商小松屋の長女、小田宅子による紀行文学作品です。裕福な商家の主婦であった宅子は、遠賀の国学者・伊藤常足を師として和歌を学び、門人の歌集『岡縣集』にも二十首程の歌が載っています。

この『東路日記』の旅は天保十二年（1841）閏正月十六日から六月十二日までの約五か月、九州から巖島神社、金毘羅宮、吉野山を経て、生涯で二度目の伊勢神宮参拝、さらに信濃の善光寺と日光東照宮に詣で、江戸・京都・大坂の芸能を見物後、船で瀬戸内海の帰路につくという壮大な旅でした。当時五十三歳の宅子に、ともに和歌を学んだ同年代の友人、芦屋の店の主婦・桑原久子と、

供の数名が同行しました。当時の各地の歌枕や名所旧跡、旅の中で遭遇した物珍しい地方の生活や風俗、関所の怖さや険しい難路を進む苦勞など、様々な見聞の記事と、

旅に因んで詠まれた三百七十首近い和歌によって構成されたこの日記は、宅子が晩年まで改稿を重ね、安政六年（1859）頃に完成したとみられます。江戸時代末頃の庶民の文化や教養も窺われ、年配の女性ながら非常にエネルギー溢れる宅子たちの行動と旺盛な好奇心が、今も読者を驚かせます。田辺聖子「姥ざかり花の旅笠—小田宅子の『東路日記』」（集英社、2001）が、この日記をもとに書かれたことでも有名です。

現存する『東路日記』の写本は、福岡県立図書館蔵本（二巻二冊）と本学図書館蔵本（二巻二冊）のみです。改稿後の決定稿に近いとされる県立図書館蔵本と違い、福岡女子大学図書館蔵本は、旅の約十年後の嘉永四年（1851）頃の成立とみられる初稿本系の本文（福岡女子大学国文学会『香椎湯』40、41参照）が見られ、非常に貴重な資料です。

国際教養学科 日本語文化教授
（学術情報センター 図書館部門長）
大久保 順子

*本学図書館は地域社会の文化・情報センターとして福岡県民に公開されています。蔵書数は、約20万冊余です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

開館曜日・・・月曜日～土曜日

開館時間・・・月～金 午前9:00～午後8:00（※3月、夏季休業中（約1ヶ月）は、土 午前9:00～午後5:00 月～土 午前9:00～午後5:00まで）

休館日・・・日曜日、国民の祝日、夏季休館（1週間）、12月29日～1月3日、館内整理日等

※詳しくはホームページをご覧ください

福岡女子大 図書館 検索

01 RIE SAKURAKI

経営学研究室

国際教養学科
講師 櫻木 理江

マーケティング戦略の
背後にある組織プロセスと
パフォーマンスの関係



私の専門はマーケティング戦略で、化粧品業界を対象として、流通チャネルの変化に対する業界大手企業の製品戦略について研究を行ってきました。特に、各社の個別の戦略がどのような組織プロセスによって生み出されているのか、そのプロセスと戦略のパフォーマンスの関係などを分析してきました。また、別の研究テーマとしてインターンシップの教育成果に関する研究も行っています。現在は、上述したテーマ以外にも、経営学全般にかかわるテーマを取り扱っています。学部ゼミでは、現在3年生のゼミ生8名とともにゼミ活動を行っています。3年次のゼミ活動は、輪読と事例



研究室ゼミ活動の様子

研究が中心ですが、10月には他大学との合同ゼミを実施します。今年度は関西大学の西村ゼミ、九州大学の鷺崎ゼミと合同で、関西大学にて実施予定です。学生たちはその準備のために、夏休みも定期的に集まってゼミ活動を行っています。ゼミは、2つのグループに分かれて、「ハウステンボス再生の背後にある経営戦略」と「ZOZOTOWN躍進の経営戦略」をテーマに設定して調査を進めています。そのほか、中村大輔先生（経済学）と伊藤瑞子さん（中村ゼミ大学院生）と共同で、育児共有の現状に関する調査・分析にも関与させて頂いております。

02 SHOTA FUJIHARA

フランスの歴史と文化研究室

国際教養学科
講師 藤原 翔太

近世国家から近代国家への移行は
いかにして行われたのか



本研究室では、広くフランス語文化圏の歴史や文化、社会について、学生とともに、研究に取り組んでいます。私自身はこれまで、フランス近代史、とりわけフランス革命とナポレオン時代に焦点をあて、その時代につくられた行政システムについて研究してきました。もちろん、歴史に関する研究がメインですが、実は、この時代につくられた行政システムはほとんど姿形を変え、ことなく、現在のフランスに引き継がれています。そのため、この時代を研究することは、どのように現在のフランス社会が構築されたかについても明らかにすることができると考えています。

実際に、私の研究室では、フランスの歴史だけでなく、フランス語やあるいは現代のフランスの社会や文化のあり方にも関心がある学生を幅広く受け入れています。例えば、ある学生は、フランスのアルザスという地域を研究しています。アルザスは、その地理的・歴史的な背景から、これまでフランスとドイツの間で国家への帰属を4度も変えてきた特異な地域です。そのため、この地域住民のアイデンティティが現在どのようなものであり、それがどのようにして構築されたのかについて調べることは、興味深い研究となっています。

これまでフランス語を勉強してきた、もっとフランスの社会や文化や歴史について知りたいという方、いつでも研究室に来てください。

B I E N V E N U E !

研究室探訪 interview

さまざまな知へのアプローチを行なう研究室は、まさに大学の心臓です。今回は本学の70を超える研究室のうち6つの研究室をご紹介します。

日々の発見と驚きを抱えた福岡女子大学の知のワンダーランドへようこそ。



公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.104 Autumn 2018

安永 良徳 (やすながよしのり) 1902-1970 彫刻家

安永氏は、1922年(大正11年)に特待生として東京美術学校(現在の東京藝術大学)の彫刻科塑像部に入部。詩人のサトウハチローや劇作家の菊田一夫とも親交を深めた。多感な青春時代に仲間と広い交友を持ったことが後の創作活動に大いに影響を与えている。1927年(昭和2年)に同校を卒業後、新進の彫刻家団体「構造社」に参加し、精力的に新しい造形の彫塑に取り組んだ。戦中は満州応召、シベリア抑留と厳しい時代を越え、戦後は福岡市地行町にアトリエを設け、福岡県美術協合理事長、日展審査員などを歴任し、西日本美術界の指導者として重きをなした。福岡女子大学美術館には、安永氏のご遺族から数多くの秀逸な作品を寄贈いただき、展示しております。皆さま、ぜひ足をお運びください。

CONTENTS

01-04 特集
研究室探訪
interview

05-12 FWU NEWS
05 events
・寛仁親王妃信子殿下のお成りについて
・香住丘校区夏まつり
・地域の方々との交流を目指して～納涼祭

06-08 international
・WJC日本語サバイバル合宿
・WJC自主研究発表会・閉講式
・交換留学相談会
・秋派遣交換留学生出発式
・EAT 2018(アジア食文化プログラム)
・CASEUFサマープログラム

09-11 outreach
・生涯学習カレッジ 2018
・2018年度公開講座
・東部地域大学連携による地域貢献活動
・アートマネジメント人材育成講座
・大塚製薬株式会社との連携協定
・スポーツと健康に関する産学連携セミナー
・社会人学び直しプログラム第4期

12 academic life
・空手世界大会優勝
・プーラ大学(クオアチア)での日本語教育
・老化促進モデルマウス学会
「若手優秀演題賞」受賞

13-14 INFORMATION
・100周年記念事業基金

05 MASANORI OTA

公衆衛生学研究室

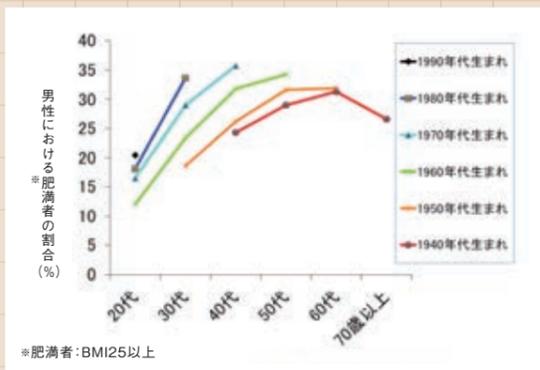
食・健康学科
教授 太田 雅規

健康的な生活習慣を獲得するために
- 予防医学の研究



本研究室では、健康をキーワードに様々な視点で研究に取り組んでいます。具体的には、2016年度は文部科学省「スーパー食育スクール事業」、2017年度、2018年度は同じく「つながる食育推進事業」というように、小中学生を対象とした食育に関する研究や、介護予防に関する実践的研究、メタボリックシンドローム予防のための効果的な保健指導についての研究にも取り組んでいます。

右図は、毎年行われる国民健康栄養調査のデータを元に、筆者が各出生年代別にデータをつなぎ、男性の肥満者の割合を経時的に表したものです。この図から明らかのように、男性は年齢と共に肥満者が増え、また、その増加速度は、若い世代ほど速くなってきていることが分かります。現在、メタボ健診といわれている特定健康診査の対象は40歳以上となっていますが、この図を見ますと、もっと早いタイミングで健康的な生活習慣を獲得する必要があります。小中学生時代は、健康的な生活習慣を獲得するにはとても良い時期だと考えられます。現在、小中学生を対象とした食育に取り組んでいます。将来も見据えた研究になるよう、取り組んでいきたいと思っています。



03 TOMOAKI KOZAKI

生活環境衛生・計画学研究室

環境科学科
准教授 小崎 智照

光などによる生理心理的作用と
そのメカニズムを解明する



熱中症予防服の実験の様子

が快適性や作業効率に与える影響、熱中症対策用品として作業現場で普及しつつあるファン付作業服の耐暑効果や作業効率への影響に関する実験室研究などがあります。これらの研究は卒業研究の一環として学生が取り組み、学生はアンケート用紙の作成方法や心電図などの人間の生理反応測定に関する専門知識や技術の習得に努力しています。また、卒業研究として取り組んだ研究成果を学生が学会にて発表するなど、学内だけでなく学外でも積極的に研究活動を行っております。これらの活動が実り、昨年度の人類労働学会西日本地方会にて優秀発表賞を受賞しました。以上のような研究・教育活動を通して、より快適で健康的な生活環境の実現に貢献していきたいと思っています。

04 MASAHIRO WAKATAKE

建築設計学研究室

環境科学科
講師 若竹 雅宏

人々の生活の質を向上させる
空間設計とは



研究室ゼミ活動の様子



本研究室では、その名前の通り「建築」についての研究、特に「人々の日々の生活をより良いものにするためには、どのような空間を設計すればいいのか」、この命題を解決するべく研究を行なっています。研究の分野は、①建築計画、②避難安全計画の分野になります。具体的には、①地域のコミュニティ形成や地域住民の様々な活動を行なう場所と機能の関係について研究を行なう「地域施設計画」に関わる分野と、②それら空間の安全性に関わる「避難安全計画」に関わる分野を中心としています。研究の対象は、特に公民館やコミュニティセンターなどのコミュニティ施設を中心として、「公共・地域・居住・コミュニティ・施設」に関わる実際の「空間」を研究対象としています。卒業研究生は、この様な研究のフィールドをベースとして、個人が持っている関心事・興味のある事から自身で研究テーマを探り決定し、研究に取り組んでいます。その過程では、必ずフィールドに出て、眼で見て・手で触り、身体で感じた事からステップを踏んでいく事を大切にしています。建築について見たり考えたりすることが好きな人、ものを作るのが好きな人。建築に関心ある人たちが集まった場所が、「建築設計学研究室」です。私たちと一緒に建築を学んでみませんか？



06 AKIKO NANRI

公衆栄養学研究室

食・健康学科
准教授 南里 明子

糖尿病や抑うつを予防する
食を通した健康づくり

厚生労働省の調査によると、2017年の日本人の平均寿命は男性81.09歳、女性87.26歳で年々延びています。しかし、その一方で、糖尿病やうつ病などの生活習慣病は増加しており、重要な社会問題となっています。生活習慣病はその名の通り、生活習慣がその発症や進行に関わっているため、生活習慣を改善することで発症を予防したり進行を遅らせたりすることができます。公衆栄養学研究室では、生活習慣の中でも特に食事要因に注目し、栄養素レベル、食品レベル、料理レベル、食事レベルで生活習慣病との

関連を研究しています。本年度当研究室に所属する学生は、関東にある事業所や本学で調査を行い（写真）、魚の摂取や調理法と糖代謝との関連、食事バランスガイド遵守スコアと抑うつとの関連、女子大生における生活習慣と月経状況との関連についての研究に取り組んでいます。栄養疫学研究により食事要因と生活習慣病に関するエビデンスを構築し、エビデンスに基づいた健康な食事を提案することで多くの人々の健康に役立つことができたいと思っています。



本学における調査の様子



職場における調査の様子

international

2018.6.23-24 WJC 日本語サバイバル合宿を実施

6月23日から24日にかけて、WJC日本語サバイバル合宿を宗像市のグローバルアリーナで実施しました。この日本語サバイバル合宿は、WJCに所属している留学生を対象に、日本語能力と学習意欲の向上を目的として毎年実施しています。今回はWJC留学生24名および日本人学生サポーター10名の合計34名が参加し、日本語だけを用いて、あいうえお作文、はないちもんめ、寸劇作成等の活動に取り組みました。最後の寸劇発表では、オリジナルの脚本をもとに、手作りの小道具を上手に使いながら、期待以上のパフォーマンスを披露しました。

WJC留学生たちは日本語学習の楽しさや重要性を再確認するとともに、これまで習得してきた日本語能力に対して自信を深め、今後の学習に対するモチベーションが更に高まったようです。

WJCとは
The World of Japanese Contemporary Culture Programの略で、外国人留学生向けの短期プログラムです。



2018.7.18/8.2 2018 年度春学期 WJCの自主研究発表会 および閉講式を実施



WJCに所属する留学生たちは、自らの興味や関心に基づいてテーマを設定し、半年から1年をかけて研究を行います。

7月18日に行われた自主研究発表会では、「LGBT」「ホラー映画」「博多祇園山笠」など多種多様な日本現代文化に関するテーマについて、研究の成果を発表しました。

8月2日には、2018年度春学期の閉講式を挙行了しました。修生は日本現代文化を中心に教室内で学ぶだけでなく、キャンパス内外において様々な活動に取り組み、本学学生や地域住民との交流を深めてきました。留学生は母校に戻り、今後は本学の親善大使として、世界中で活躍してくれることが期待されます。

9月には、新たに21名の留学生を迎えて第9期WJCを開始します。日本や福岡に対する深い理解を持った「親福岡・知福岡人材」を世界に輩出していきます。

events

2018.7.15 寛仁親王妃信子殿下が本学にお成りになりました。

7月15日に寛仁親王妃信子殿下が地方事情御視察のため本学にお成りになりました。妃殿下は、梶山理事長兼学長から大学の最近の活動状況について概要を御聴取された後、学内を御視察にされました。

国際学友寮などでこでは、寮生が実際に生活している居室を御訪問になり、学生と意見を交わされました。

また、図書館では、村上祥子料理研究資料文庫を熱心に御覧になられたほか、女子大美術館の彫刻作品を手で触りながら鑑賞されるなど美術品に高い御関心を示されました。

引き続き行われた学生代表との御昼食会では、学生たちに御自身の留学経験談も交えながら語りかけられるなど温かい御言葉をかけていただきました。



2018.7.28 香住丘校区夏まつりに参加

7月28日に本学が所在する香住丘校区で毎年恒例の「香住丘校区夏まつり」がはいかえんで開催され、留学生を含む約30名の学生が浴衣姿で参加しました。今年で7回目の実施となり、香住丘公民館をはじめとした校区の方々のご厚意で、浴衣の貸出・着付け・ヘアセットをしていただきました。

連日続く猛暑の中での開催でしたが、学生たちは浴衣の裾を翻しながら、ステージイベントの司会や抽選会のサポート等、ボランティアスタッフとして協力するとともに、楽しい夏の思い出を作ることができました。

ご協力いただいた夏まつり実行委員会の皆様に重ねてお礼申し上げます。



2018.8.2 地域の方々との交流を目指して～納涼祭～



8月2日に地域の方々との交流を深めるため、初めて納涼祭を開催しました。

当日は、猛暑の中での開催となりましたが、学生が企画した体験コーナー、ステージイベントでは、地域のお子様からお年寄りまで幅広い年齢層の方々にご参加いただき、納涼祭が大いに盛り上がりました。学生にとっても、地域の方々に自分たちの課外活動の成果を見ていただけるという貴重な体験をすることができ、今後の活動の糧になりました。

また、同窓会の方々には、納涼祭参加の学生に浴衣の着付けを教えていただき、夏祭りらしさに花が添えられました。そして、「宗像の良さをもっと知ってもらおう!」と始められたプロジェクト「むなこれ」様の地元の美味しい食材をふんだんに使った料理と、フラダンスサークルの皆様の涼しげなダンスで、地域の方々に大いに喜んでいただくことができました。この場を借りて、お礼を申し上げます。皆様のおかげで、地域の方々との距離が縮まった有意義な時間となりました。

international

2018.8.5-19 EAT 2018 (アジア食文化プログラム)を実施

プログラム期間:2018年8月5日~8月19日

前半:梨花女子大学校(2018年8月5日~8月12日)
後半:福岡女子大学(2018年8月12日~8月19日)

EATプログラムは、梨花女子大学校(韓国)、マヒドン大学(タイ)と本学の3大学の共催でアジアの食文化について幅広く学ぶプログラムです。2018年度は、総勢27名の学生が参加し、第1週目を梨花女子大学校で、第2週目を本学で実施しました。

今年のテーマは『食の持続可能性について (food sustainability)』です。食の将来に深く関わる環境についても学ぶなど、多角的な視点からテーマについて考え、それぞれのグループプレゼンテーションに向けて準備を重ね、発表しました。また、韓国ではキムチやコチュジャン作り、福岡では寿司作りなど、それぞれの国の食文化を講義だけでなく実際に体験することで、より深く学ぶことができました。

英語でコミュニケーションをとることが求められ、加えて、プログラム期間中はグループワークや寮での共同生活において、交流を深めながら語学力の向上にもつながりました。



2018.8.3-17 ASEAN-EU 域内大学コンソーシアム福岡 サマープログラムを実施



▲ルーヴァン大学 Dimitri Vanoverbeke教授の講義

本学が2016年度に創設したASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡(通称CASEUF)のメンバー大学(ミュンヘン、ルーヴァン、ワルシャワ、マンチェスター、マヒドン、タマサート、ガジャマダ、ベトナム国家大学ハノイ、アテネオ・デ・マニラ)と連携して、CASEUFサマープログラムを実施しました。

8月3日から17日までの期間中、メンバー大学から合計19名の学生と本学からは14名が参加し、共に学ぶ中で国や地域により異なる社会背景の多様性を認識する機会となりました。日本、ASEAN、EUを法と社会の視点からみる講義を開講し(教授言語は英語)、講師には、ルーヴァン大学(ベルギー)のDimitri Vanoverbeke教授と放送大学の柳原正治教授をお招きしました。また、期間中に"Women Leaders: The Next Chapter"と題する特別講演会を実施し、アテネオ・デ・マニラ大学のAntonette Palma-Angles教授に講演いただきました。

本学学生にとっては、国際的環境下で学ぶ貴重な学内留学体験となりました。

international

2018.6.14・15/6.18/6.21 交換留学相談会を開催

6月中旬に、交換留学を目指す本学学生を対象に、交換留学経験者との相談会を開催しました。国際化推進センターでは、留学を志望する学生の個別相談に随時応じていますが、この相談会は交換留学を経験した本学学生を招いて座談会形式で行いました。4日間にわたり開催した相談会には、19名の留学経験者と約40名の留学志望者が参加し、多くの質疑応答が続く活発な相談会となりました。

参加した学生達は、留学経験者の現地での経験談や勉学の様子を聞いて、留学への関心と意欲を一層高めたようでした。また、今まで興味の無かった国や大学に関心を持った学生も多く、非常に有意義な機会となりました。

今後もこのような相談会を定期的実施することで、交換留学に対する不安を和らげると同時に、学生達が目的を明確にして留学に臨むことができるよう支援します。



2018.7.11 派遣交換留学生出発式を挙げる

7月11日に、2018年秋季に交換留学に出発する本学学生17名の出発式を挙行しました。式典では派遣学生達が1名ずつ出発に向けての決意表明のスピーチを行いました。交換留学で派遣される学生達は、派遣先大学での専門科目の履修が求められますが、英語で開講される専門科目の履修は容易ではありません。期待と不安が入り混じる中、本学副学長より激励のメッセージが贈られ、派遣学生達は出発に向けて一層気が引き締まったようでした。

今回、アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)、プリンスエドワードアイランド大学(カナダ)、ソウル大学校生活科学大学(韓国)の3大学へは、初めて学生を派遣することになりました。

本学は、世界で活躍する女性リーダーとなる人材を育てるべく、交換留学制度の拡充を図っています。



outreach

2018.6.24/7.1

平成30年度 大学における文化芸術推進事業 「アートマネジメント人材育成講座」を開講

文化庁「平成30年度 大学における文化芸術推進事業」の採択を受け、宗像市をフィールドに、文化芸術を通して障がいの有無に関わらないアートの楽しみ方をわかちあう場をつくることを目的としてアートマネジメント人材育成講座を開講しました。

6月に実施した導入講座ではニッセイ基礎研究所の大澤寅雄氏による「アートマネジメントの全体像について等」というテーマでの講演や、視覚に頼らない絵画鑑賞体験のワークショップ等を実施しました。本講座初回の特別講義(7月1日)では、九州大学の長津結一郎氏に「障がいとアート」についての概論及び長津氏の社会包摂に関わる研究や経験、受講生の企画や運営に参考になる話をさせていただきました。7月18日には、宗像市内にある小学校の特別支援学級の児童を対象とした現場体験を実施しました。「アトムジカ」による音楽紙芝居や工作、等身大スケッチなど、音楽と美術を組み合わせた楽しいワークショップに子どもたちも夢中になっていました。これらの講座や体験を基に受講生は企画を立て、グループに分かれて実践をする予定です。10月と11月には特別公開講座も開催します。



▲ 6/24 視覚に頼らない絵画鑑賞体験



◀ 7/1 長津氏による特別講義のアイスブレイクの様子

2018.6.13

大塚製薬株式会社との 包括的連携協定を締結



▲ 写真左から 後藤寛雄 大塚製薬(株)福岡支店長、梶山学長



6月13日に本学において、福岡女子大学と大塚製薬株式会社との包括的連携協定の調印式が執り行われました。大塚製薬株式会社と公立大学と連携協定を締結するのは本学が初となります。

これまでも本学が主催する「産学官地域連携セミナー」において、スポーツ栄養に関するご講演をいただく等、交流事業を行ってまいりましたが、本協定を契機に、食や健康をはじめ地域貢献や災害対策自販機の設置等、様々な形態で連携事業を進めてまいります。

outreach

2018.5.20/6.23

生涯学習カレッジ2018を開講

5月20日に「福岡女子大学生涯学習カレッジ2018」を開講いたしました。

大学キャンパスの他、学外をフィールドとし、「住民と大学が共に学ぶアクティブな学習の場」として、学びの中に「遊び心」を取り入れた本プログラムは、今年で4年目を迎えます。

本年度は全体のテーマを「日本の伝統文化」と掲げ、受講生は大学の講義にとどまらない多彩なプログラムを通して、学習の柱である「感性」を磨いていきます。



▲ 5/20 第1回「開講式」梶山学長よりあいさつ



▲ 5/20 「大学美術館トランスアートセッション」



▲ 6/23 第3回「感性とは?—中世に生きた人々に学ぶ」

2018.6.2/7.28

福岡女子大学 2018年度公開講座を開講

地域連携センター女性生涯学習研究部門では、地域の方々に生涯学習の場を提供するため公開講座を開催しています。

2018年度は例年、好評をいただいております英語力習得のための講座をはじめ、歴史、文学、環境、国際化、食と健康をテーマにバリエーション豊富なプログラムを実施します。



▲ 6/2 「現代台湾における女性—エスニシティ(民族性)とジェンダーのせめぎあい」
(講師:国際教養学科 宮崎聖子教授)



▲ 7/28 「外交官は任地の言葉をどうやって会得するのか」
(講師:国際教養学科 山下哲生教授)

2018.6.2・9

東部地域大学連携による 地域貢献活動を実施

福岡女子大学では、2011年11月に近隣の九州産業大学、福岡工業大学と連携協定を締結し、東部地域大学連携として様々な活動を行っています。

6月2日に芸術文化活動の推進を目的として開催された「第2回なみき芸術文化祭」では、食の国際交流をテーマに、三大学それぞれ工夫を凝らした料理を出店し、本学からは、学生が自主運営する「Language cafe」からベトナム語カフェの学生たちが、ベトナムの伝統的デザート・チャーを販売し、好評を得ました。

また、6月9日に開催された「平成30年度福岡市市民総合防災訓練(東区会場)」には、三大学の学生有志23名が参加しました。地域の方々の災害時の連携確認等に協力するとともに、実際に災害が発生した際、自分たち自身はどのような行動をとるべきかについて考える機会となりました。

6/2
なみき芸術文化祭 ▶



▲ 6/9 福岡市民総合防災訓練
(山方東区長との集合写真)

academic life

空手の世界大会で優勝

4月にアメリカのデンバーで開催された空手の世界大会に出場し、優勝することができました。これは、師範でもある父の支えがあったものです。父が師範ということもあり、2歳の頃から空手を始めました。幼い頃は、地方大会でも全然勝てないような選手でした。しかし、小学・中学・高校と続けているうちに、段々と成績を残すことができるようになり、そして今回世界大会という場で優勝しました。これはまさに、小さな努力の積み重ねが大きな成果につながるという意味の天滴穿石(てんできいしをもうがつ)という言葉がふさわしいと思います。今回の経験を、空手だけでなく、学生生活やこれからの人生に活かしていきたいです。

また、先日稽古中に膝の靭帯を損傷する怪我をしました。リハビリを含め、全治10ヶ月程かかるそうです。次の全日本大会に向けて稽古に励んでいるときだったので、正直悔しいですが、不撓不屈の精神で諦めず、精進してまいります。



国際教養学科 2年
林 華鈴さん



プーラ大学での日本語教育実習を終えて

■ プーラ大学 人文学部 日本語・日本文化学科 (2017.9-2018.6)

私はクロアチアのプーラ大学で、昨年の9月から約1年間、日本語教育実習生として日本語の授業を行いました。

プーラ大学の日本語・日本文化学科は、2015年に開講された新しい学科です。そのため、授業スケジュールを実習生で決め、授業はもちろん、テスト作成や成績の評価なども私たち実習生で行う必要がありました。授業準備が大変なときもありましたが、同じ実習生としてプーラ大学に来ていた広島大学や筑波大学の学生、そして同じ女子大の後輩と、4人で励まし合いながら最後までやり抜くことができました。

クロアチアは日本から遠く離れた国ですが、日本語や日本文化に興味を持っている学生が多います。また、人も優しく、食べ物もおいしく、景色も綺麗で、本当に素敵な場所です。これからも、福岡女子大学とプーラ大学の交流が続いていくことを願っています。

※プーラ大学日本語教育実習は、本学が公認する海外留学・研修プログラムとして実施しています。



国際教養学科 4年
菊本 恵子さん



第33回 老化促進モデルマウス(SAM)学会にて「若手優秀演題賞」受賞

■ 第33回 老化促進モデルマウス(SAM)学会 (2018.7.14・15)

人間環境科学研究科・人間環境科学専攻・栄養健康科学領域 2年
沈 穎昇さん

栄養学研究室に所属している、中国留学生の沈 穎昇と申します。このたび、静岡で開催された第33回 老化促進モデルマウス(SAM)学会にて「DHAの積極的投与が老化制御に及ぼす影響」に関する研究結果を報告したところ「若手優秀演題賞」を頂きました。老化促進マウスとは促進老化・短寿命を示すマウスの系統であり、生物の老化機構や老化関連疾患の研究によく用いられます。

近年、認知症や精神障害に及ぼす魚油の予防効果が盛んに報告されており、なかでも魚油に豊富なDHAは脳の発達、記憶学習機能の維持に重要な役割を担っていることが明らかにされています。しかし、DHA投与による運動機能に及ぼす影響は十分に検討されていません。

本研究では、老化促進マウスを用い、DHAの積極的な摂取が「高齢者を想定した運動機能に及ぼす影響」「脳でのリン脂質DHA誘導体の局在」との関連について検討しています。将来的には、アンチエイジングを考慮した高齢者栄養に関する研究として発展させていきたいと考えます。



outreach

2018.7.23 スポーツと健康に関する産学連携セミナーを開催

7月23日にスポーツと健康に関する産学連携セミナーとして、「[人間力]を強化するスポーツ健康科学と近未来テクノロジー」を開催しました。このセミナーは、6月に包括的連携協定を締結した大塚製薬株式会社との第1回目の連携事業となります。

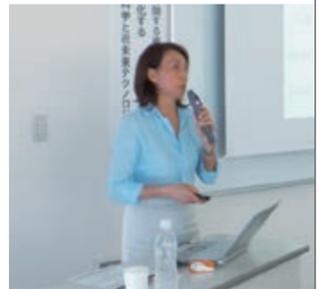
第一部では、「子どもの『生きる力』の基盤強化」と題し、本学の長野 真弓教授と九州産業大学講師 吉田 明日美氏にご講演いただきました。また、大塚製薬株式会社 神田 悠司氏にスポーツ活動中の熱中症予防対策についてご講演いただきました。

第二部では、「知力と運動能力の新たな拡張へ」と題し、ジョージア工科大学理学部 准教授 篠原 稔氏にアメリカのコミュニケーション教育の実態を交え、最新の研究成果をご講演いただきました。

地域の方や一般企業の方、学校関係者など多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。



▲ 大塚製薬(株) 神田悠司氏



▲ 長野真弓 教授

2018.5.12-6.30 社会人学び直しプログラム第4期を開講



5月12日に開講した、社会人学び直しプログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」のモジュール1が6月30日をもって終了いたしました。

モジュール1は、様々な演習を通じて、他者を巻き込み、推進していく力でもあるファシリテーション力、安心・安全な場づくり、よい問い、自分自身のリーダー(あるいはフォロワー)としての在り方などについて学びました。このような場を創る力を養うワークショップデザイン、意見を引き出し、まとめる力を養うファシリテーションは、確実な答えのある学びではないので、もやもやしながら検索を続けることこそが、リーダーシップの旅なのかもしれません。モジュール2も引き続き、学びの旅を楽しみましょう! 授業の詳細は、ぜひホームページ(「福岡 学び直し」で検索)をチェックしてください!

寄附者ご芳名

福岡女子大学100周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、多大なご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。2017年12月の募金開始から2018年6月30日までにご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。ご芳名のご公表を希望されない方は掲載しておりません。

今後とも福岡女子大学100周年記念事業への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

お名前・寄附金額の掲載について
ご了解いただいたご寄附者様

(寄附金額別、五十音順)

300万円	梶山 千里 様	5万円	天野 菁子 様	1万円	勝野由樹子 様	1万円	廣橋 靖子 様
200万円	渡辺 浩志 様		古賀 淳 様		久保 道子 様		福永 洋子 様
100万円	早淵 仁美 様		下川 太知子 様		久保 幽香子 様		藤井 小夜 様
80万円	庄山 茂子 様		照屋 ゆき 様		久保田由紀子 様		松尾 洋子 様
50万円	松田 美幸 様		南 泰子 様		堺 養子 様		松本 文世 様
	向井 剛 様	3万円	荒木 真理子 様		坂下 静枝 様		丸林 和子 様
	矢野 芙美子 様		久保山君枝 様		猿渡美千子 様		森崎 民子 様
30万円	濱田 俊 様		山崎 沙耶香 様		篠崎 恒代 様		森田 洋子 様
	山下 哲生 様	2万円	佐藤真知子 様		調 希代子 様		屋敷 好子 様
25万円	石川 洋哉 様		藤居真知子 様		杉本真由美 様		安河内由美子 様
	中村 強 様	1万円	今村 敏子 様		相田 晃子 様		矢野 梯子 様
20万円	阿部 知香 様		岩崎シゲ子 様		田中 幸子 様		山田 梯子 様
	池野 京子 様		岩元 いずみ 様		谷浦 ありさ 様		山内 洋子 様
	新開 章司 様		鶴池 皓代 様		谷口 巳佐子 様		柚之原真知子 様
	多田 洋子 様		上野 裕子 様		土屋 恵子 様		若狭 孝子 様
10万円	石川 博子 様		大木 道子 様		永沼 恵子 様		
	小川 博子 様		岡崎 恵美子 様		根井 博子 様		
	鹿野 久美子 様		小川 英子 様		野上 寛子 様		
	陶山 雪代 様		甲斐美千子 様		日野 史代 様		
	松永 直子 様		梯 公子 様		廣田真知子 様		

お名前のみ掲載について
ご了解いただいたご寄附者様

(五十音順)

浅井しのぶ 様	笠原 優子 様	白川 安子 様	馬場 広希 様	村上 祥子 様
有田 初美 様	黒木 昌一 様	薄 幸子 様	林 英子 様	村田 晴奈 様
井手 春枝 様	古賀 典子 様	高尾 妙子 様	速司 紀代子 様	森田 健 様
井手 陽子 様	児玉 雅子 様	高山 晃 様	旭岡 勝栄 様	山口 桂子 様
伊東 惇子 様	後藤 禮子 様	田中 真理子 様	平島 直子 様	山口 正子 様
井上 弘子 様	後藤 優子 様	田上 優子 様	廣田 律子 様	山路 英子 様
岩尾 悦子 様	小林タミ子 様	土本 美和 様	福田 榮子 様	山田 真知子 様
岩切 真弓 様	小宮田 鶴子 様	網脇 久代 様	福田 順子 様	山中 妙子 様
岩熊 愛子 様	佐伯 知子 様	綱田 裕子 様	藤井 順子 様	吉村 利夫 様
上村 紀久恵 様	坂田 正子 様	富田 敏子 様	藤岡 祐一 様	吉持 聖子 様
牛島 純子 様	坂田 光子 様	豊貞佳奈子 様	舟越 典子 様	
合馬 晶子 様	坂元 明子 様	中島千代子 様	前山 愛子 様	
大久保 恵美子 様	櫻井 純子 様	中田 法正 様	牧野 八寿子 様	
太田 雅規 様	佐藤 一紀 様	中村 秀子 様	松村 洋子 様	
太田 稔 様	佐藤 嘉代子 様	西原 百合枝 様	松本 京子 様	
太田 里恵子 様	柴田 緋紗子 様	橋永 郁子 様	宮田 三佐枝 様	
大村 康子 様	嶋田 美智子 様	橋本 エリナ 様	宮藤 千鶴子 様	
尾木 正子 様	島本 佳代子 様	塙 啓子 様	迎 方子 様	

福岡女子大学100周年記念事業基金(募金)に関すること

福岡女子大学 学務部学生支援班

問い合わせ先

Tel. 092-661-2418 Fax. 092-661-2415 Email 100th-bokin@fwu.ac.jp
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1

福岡女子大学100周年記念事業

「スローガン」

未来を拓く なでしこの花

一人を育て、知を生かす



福岡女子大学は2023年に100周年を迎えます。

募金の趣意

福岡女子大学は、1923年に日本初の公立女子専門学校(女専)として設立され、「次代の女性リーダーを育成」を建学の精神に、多くの有為な女性人材を輩出してきました。

2011年4月には国際文理学部1学部3学科に再編し、時代の変化に先駆けて初年次全寮制、キャンパスの国際化、英語教育の重視、体験学習の充実、海外留学の促進、クォーター制(4学期制)の完全実施等のユニークな教育改革を進めてまいりました。その活動・成果は、外部機関からも高い評価を得つつあり、イギリスの教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション』が発表したTHE 世界大学ランキング日本版において、総合ランキング(2018年62位)、国際性の分野(2018年14位)にランクインするなど、一定の成果が得られつつあります。2015年には大学院博士前期課程(修士課程)、2017年より博士後期課程を開設し、学部から大学院まで一貫して「次代の女性リーダー育成」を行える体制となりました。

また、2016年には2023年の創立100周年を見据えて、「福岡女子大学将来ビジョン*Shaping the Future-Our Centennial & Beyond*」を作成し、次の100年に向けた福岡女子大学の決意を示しました。2023年の創立100周年に向け、本学の強みである国際的に活躍できるグローバル人材の育成を加速させ、大学の本質である教育で世界のトップ大学と競争するために、福岡女子大学100周年記念事業を実施し、教育・研究リソースの充実・強化につなげていきます。指導的地位に占める女性の割合について目標が掲げられるなど社会において求められる人材像が変化中、今後とも次代の女性リーダーにふさわしい感性を持ったトップリーダーの養成に取り組んでまいります。

なお、100周年記念事業としては主に4事業で総額3億円を計画しております。

- 女性リーダーシップセンター(仮称)の設立
- 国際フードスタディセンター(仮称)の設立
- 福岡女子大フィルハーモニーオーケストラ(仮称)の設立
- 学生・教職員の国際的活動の支援

寄附報告

福岡女子大学100周年記念事業基金へのご寄附に、心からの感謝を申し上げます。

寄附件数 400件 寄附累計額 26,473,000円 (2018年6月30日現在)

領収書について

2018年1月1日から6月30日までにご寄附いただいた皆様には、8月上旬までに「福岡女子大学 100周年記念事業基金寄附金領収書」を発送させていただいております。この領収書は確定申告時に必要となりますので、大切に保管いただきますようお願いいたします。

また、ご寄附いただいた方で、領収書がまだ届いていない方は、お手数ですが、問い合わせ先までご連絡いただきますようお願いいたします。